福祉教育をすすめるために

～各社協における実践より～

＊ 総 社 市 社 協 …… 30
＊ 笠 岡 市 社 協 …… 32
＊ 御 津 町 社 協 …… 38

総社市社会福祉協議会社会福祉学習支援事業実施要領

（目的）

第１条　本事業は、学校、企業、市民等を対象に、福祉を通して、すべての人を個人として尊重し、思いやりの心を持って、共に生きる社会づくりに必要な学習を支援することを目的とする。

（実施主体）

第２条　この事業の実施主体は、社会福祉法人総社市社会福祉協議会（以下「社協」という。）とする。

（対象）

第３条　この事業は、総社市内の学校、企業及び市民等で福祉に関心のある者を対象とする。

（事業の内容）

第４条　事業の内容は、次のとおりとする。

（１）地域で身近に暮らしているすべての人の様々な生活や生き方に気づき、出会いとふれあい体験を通じて、他者の立場や心情を理解し、思いやりの心や、互いに支え合う心を養うための学習支援活動

（２）福祉課題を抱えた人々とのかかわりの中で、様々な人と共に、社会福祉の理念、制度、施策の現状と課題点を学ぶと共に、福祉向上に寄与する実践力を育てるための学習支援活動

（３）地域社会において、様々な人と連携し、組織的、計画的、継続的に福祉活動を実践し、共に生きる福祉社会の形成主体となるための支援活動

（４）その他、この事業の目的達成に必要な活動

（事業の申請）

第５条　事業を利用しようとする者又は団体等（以下「申請者」という。）は、社会福祉学習支援申請書（様式第１号）を、事業実施３週間前までに総社市社会福祉協議会に申請しなければならない。

附　則

この要領は、平成１６年４月１日から施行する。

様式第１号

社会福祉学習支援事業　申請書

開催日時	平成　　年　　月　　日（　　）　　時　　分～　　時　　分					
対象者	（一　般・企　業・小学生・中学生・高校生・大学生　）					
	学年		クラス名		人数	
担当者			会　場			
今回の学習プログラム	○目的（今回の学習を通じて何を学びたいのか） ○学習内容（どのような内容にしたいのか） ○今まで受けた学習・活動内容 ○今後の学習・活動の計画					

上記のとおり申請します。

平成　　年　　月　　日

住　所　　（TEL　　）

氏　名　　印

社会福祉法人 総社市社会福祉協議会会長　様

※本書は原則として開催日の３週間前までに提出ください。

※学習プログラムにおいて、年間を通した目的･計画･日程表等があれば添付してください。

車いす・アイマスク体験を始める前に

1．ふくしってなに

＊気持ちを1つに

内　容

①5、6人のグループになります。

②出題者がテーマを出します。そのテーマにあう絵を全員一斉に書いてグループ全体が同じ絵を書くようにします。

③ルールは何を書くか言わないことと、自分が書いたものを見せないこと。

ex.「花」というテーマを出した場合、かかれる絵はチューリップやひまわりなどが出たりするので最初のうちは意外と難しいゲームです。

出題テーマ例：「花」、「乗り物」、「文房具」、「教室にあるもの」

なかなか難しいときはもう一回同じテーマで行います。

＊伝えよう

内　容

①言葉を使わずに問題を伝えます。

出題例

（1）大きな木
（2）小さな木
（3）川
（4）うどん
（5）スパゲティ

言葉がなくても伝わる事を知り、言葉だけでも表現によって受け取り方が違う事を知ってもらう。手話を知らない自分たちにも口を使わずに伝えることが出来る事を知る。

②見えにくいに友だちにどんなものかを伝えよう。

出題例

（1）ぬいぐるみ
（2）テレホンカードとキャッシュカード
（3）石鹸と入浴剤

カード社会の中で視覚に障害をもつ人がカードを使うときの気持ちになってみる。
視覚障害者にとって音の情報とともに大切なのが香の情報で、その伝達を体験してみる。

2．体験をする前に

• 自分が車椅子を使ったなら

• 自分が手を引いてもらうなら

車椅子の使い方や手引きの方法を説明し、介助を体験してみる。

3．ふりかえり

今日の体験をみんなで振り返ります。

相手の気持ちになること、相手と会話することの大切さと自分だったらどんなこと今日一日で感じた事をグループで話し合っていく。

次に車椅子もしくはアイマスク体験をすることをふまえて、友達が車椅子を利用するようになったらどうするか、クラスに教科書や黒板が見えにくい人がいたら何をしていくかといったことをみんなで考えてみる。

車椅子体験の流れ

○時間設定

時　間	内　容	場　所
15 分	車いすの説明　※	体育館
15 分	車いす体験①（練習）（3分×4人）	〃
5 分	押し方等再確認	〃
5 分	休憩	校　内
25 分	車いす体験②（本番）（6分×4人）	
10 分	ふりかえり（感想）	

○当日までの準備

・児童を6つのグループに分け、各グループ内で車いすに乗る順番を決めておく。

・校内での車いす体験の時のコースを決めておく。

○体育館内での練習の際の障害物設置について

〈考えられるバリア〉	→	〈設置器具〉
段差	→	マット
狭い道・障害物のある道	→	コーンを両側に立てる。（車いすの幅は約80ｃｍ）
高い所	→	体育館のステージ上に、物（本など）を置き、それを取る。（車いすの高さからだと届かないかもしれません。）

※車いすの説明の詳細

①質問（車いすに乗ったことがあるか？・車いすの人を見たことがあるか？　車いすを押す時どんなことに気をつけたらいいか？）

②車いすの部位説明

③車いす介助のポイント

④車いすの広げ方、折りたたみ方、押し方等

高齢者疑似体験の流れ

○高齢者疑似体験の内容

①ボランティア活動をするにあたって
　基本的な視点の確認

②あなたが思っているお年寄りのイメージは？　　→ワークシートに記入

③お年寄りの心とからだの変化について知りましょう。

④実際に、「疑似体験セット」を装着してみましょう。（疑似体験セットの説明）

⑤「高齢者疑似体験」を行ってみましょう。
　2，3人でペアになり、1人が体験者、1人が介護者（3人の場合は、もう1人が観察者）になってもらいます。ひととおりの体験後、役割を交代してやってみましょう。

☆たとえば、こんなことに挑戦してみてください！
- 歩く、座る、寝るなどの日常生活上の基本的動作
- 周りの人と話をする
- 車椅子に乗ってみる
- 階段の昇降
- ペットボトルを開けて飲み物を飲んでみる
- 新聞を読む
- 書類（介護保険申請書）に記入してみる
- 財布からお金を出す
- 折り紙を折ってみる　　などなど

⑥ふりかえり　　→　ワークシート記入

⑦今日の体験の感想を話し合ってみましょう。

アイマスク体験の流れ

○時間設定

時　間	内　容	場　所
15 分	アイマスクの説明	教　室
10 分	アイマスク体験①	教　室
30 分	アイマスク体験②（15分×２回）	校　内
5 分	ふりかえり（感想）	

○アイマスク体験の内容

①教室の中で

例：机の上のものをあててみる。
かばん又は机の中から、国語の教科書を取り出してみる。
筆箱の中から赤鉛筆を出す。
声を聞いて友達の名前をあててみる。
友達の顔を触って、誰かあてる。
教室の右端と左端で交互に鈴を鳴らして、どちら側から聞こえるかあてる。
アイマスクを付けて給食を食べてみる。隣で介助する。

②校内で

例：ふだん歩き慣れている校内を歩いてみる。

○当日までの準備

・児童を２人１組のグループに分け、アイマスクを体験する順番を決めておく。
・校内の体験歩行の経路を決めておく。

車いす体験　事前・事後学習　（記入式シート）

目の高さを30ｃｍ下げよう!!

＊車いすを使っている人を見たことがありますか？　は　い　・　いいえ
＊車いすを使っている人に話しかけたことがありますか？　は　い　・　いいえ
＊車いすを使ったことがありますか？　は　い　・　いいえ
＊車いすを押したことがありますか？　は　い　・　いいえ
＊車いすに乗った人が階段を上ろうとしています。あなたは、どうしますか？

今日の体験から・・・!!

＊車いすにのってみて？？

＊車いすの介助をしてみて？？

＊もし、あなたの足が不自由になって、車いすに乗ることになったら、周りの人にどんなふうにしてほしいですか？

＊車いすに乗っている人の気持ちを想像してみましょう！
困ることやうれしいことなどどんな思いや願いを持っているでしょうか？

＊今度、車いすに乗っている人に会ったらどうしますか？

○社協がしていることの内容一覧

1．体験学習の直接支援（出前福祉講座の講師など）

2．体験学習資材の貸し出し（車いす、アイマスク、老人体験セット等）

3．体験学習の支援者の調整

4．福祉教育のプログラム作成や相談

5．地域の社会資源や人材に関する情報提供

6．福祉情報の提供

7．ボランティア担当職員連絡会

8．地域や関係機関との連携強化

「福祉分野のことにとりくみたいけど、よく分からない」という時は…

社会福祉協議会にご相談ください!

～社会福祉協議会では、福祉学習のお手伝いをします。～

＊学校での体験学習のサポート

ハンディキャップ体験と介助体験

（車いす体験・アイマスク体験・老人体験・片麻痺体験・無音体験・手話体験・点字体験等）

＊協力者や講師のコーディネート

障害者・高齢者・ボランティア等福祉学習に協力してくれる人のコーディネートをします。総合学習の協力者など福祉分野以外でも地域の人材のコーディネートをします。（「町内社会資源・人材リスト」もご活用ください。）

＊福祉機材の貸し出し

車いす・アイマスク・高齢者＆障害者疑似体験セット等の貸し出しをします。

県社協で、ビデオフィルム（約450本）の貸し出しをしています。（詳細は、冊子「フィルムライブラリー」をご覧ください。）

＊総合学習のプログラム作り

総合学習のプログラムを作る時のご相談に応じます。

小・中学生にできるボランティア活動の内容を一緒に考えます。

◇その他どんなことでもお気軽にご相談ください。

御津町社協　TEL：２４－３１２１

福祉体験メニュー一覧

☆視聴覚教材を使いたい

県社協で、ビデオフィルム（約400本）の貸し出しをしています。

詳細は、冊子「フィルムライブラリー」をご覧ください。

☆ハンディキャップ体験をしたい

①車いす体験

②アイマスク体験

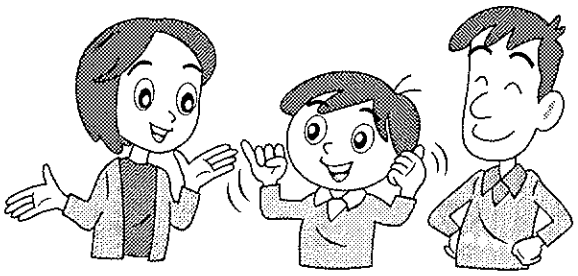
③老人体験

④片マヒ体験

⑤無音体験

⑥手話体験

⑦点字体験



※上記のメニューで介助体験を行なうこともできます。

☆当事者の話を聴きたい＆当事者と交流したい

①障害者

②高齢者

③ボランティア

④その他

☆ボランティアをしたい

①施設で（老人ホーム、保育園など）

②地域で（クリーン作戦・地域のお年寄りや障害をもつ人との交流など）

③家や学校で（お年寄りとのお便り交流・古切手・テレホンカード等収集など）

④その他いろいろ

☆福祉分野のことに取り組みたいが、よく分からないという時は、気軽に社協にご相談ください。（御津町社協TEL：24-3121）

出前福祉講座　申込書

（社協受付日　平成　　年　　月　　日）

1．団 体 名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　印

2．実施希望日・時間（希望順位の高いものから記入）

①平成　　年　　月　　日（　　）　　：　　～　　：

②平成　　年　　月　　日（　　）　　：　　～　　：

③平成　　年　　月　　日（　　）　　：　　～　　：

※実施希望日の２週間前までに申込のこと

3．実施場所　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4．対象人数　＿＿＿＿名（内訳：　　）

5．体験のねらい

……

……

……

……

6．希望する内容

□車いす体験

□アイマスク体験

□手話体験

□点字体験

□体験談（障害者・高齢者・ボランティア・その他　　）

□その他（　　）

※手話・点字等で外部講師を依頼する場合は、謝礼が必要

7．事前打合希望日時

第１回　平成　　年　　月　　日（　　）　　：　　～　　：

第２回　平成　　年　　月　　日（　　）　　：　　～　　：

8．担当者名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

☆総合学習などのための町内の機関・団体や人材のリストです。各団体の活動内容等詳細は個別にお問い合わせください。

子どもの体験活動、調査活動のための御津町内社会資源一覧

H15．4現在

団　体　名	代表者名又は連絡先	住　所	電　話	備　考

☆環境・自然保護☆

○○○の会				

☆文化・芸術☆

○○○のクラブ				文化財の保護等

☆国　　際☆

○○○協会				

☆福　　祉☆

○○園				老人ホーム
シルバー○○				

☆農林水産☆

○○組合				

☆そ の 他☆

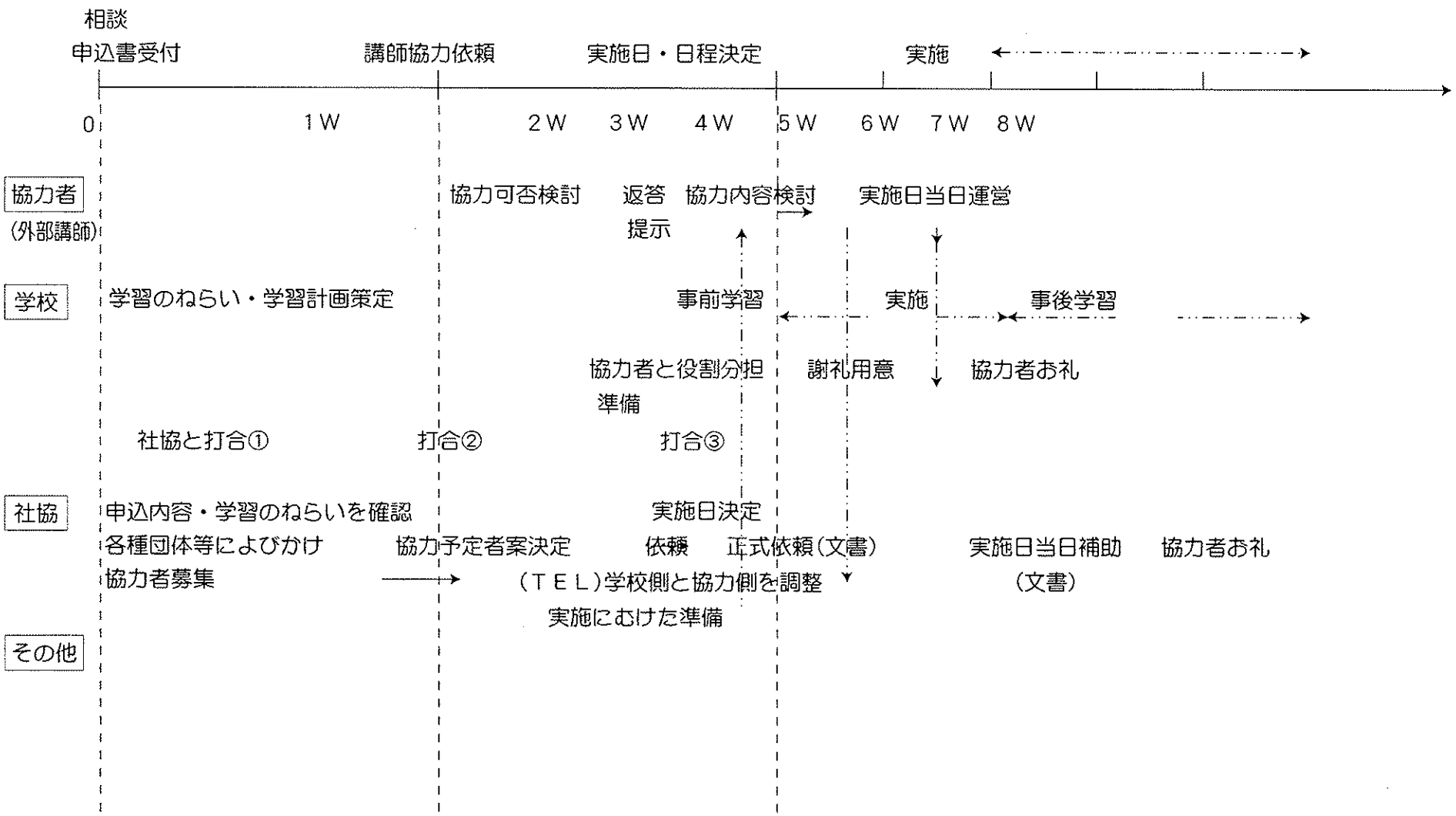
○○○協議会				
○○の会				

☆行政機関等☆

御津町役場				
教育委員会				
町立図書館				
○○病院				
○○駅				
社会福祉協議会				

外部講師による出前福祉講座　スケジュール表

※点字・手話などで外部講師を依頼する場合１ヶ月前くらいまでに申込が必要



○○小学校４年生　総合的な学習の時間　福祉学習プログラム

対象児童：24名　担当教諭：○○先生

○テーマ

ハンディキャップ体験を通して学ぶ

２学期　障害について理解しよう

３学期　高齢者について理解しよう

○学習の流れ

９／11（木）　道徳授業「心の信号機」

９／12（金）　障害についてアンケート（身近にいる障害のある人は　等）

９／16（火）　障害について調べ学習

９／19（金）　ビデオ視聴（身体障害者に関するビデオ）

９／24（水）　ハンディキャップ体験オリエンテーション

９／30（火）　道徳「オトちゃんルール」（五体不満足の著者乙武さんの本より）

10／３（金）　車椅子体験

10／７（火）　話し合い

10／15（水）　無音体験

10／17（金）　手話講習会

10／21（火）　話し合い

10／24（金）　アイマスク体験

10／28（火）盲導犬とふれあおう

県視聴覚障害者福祉センターの○○さんと盲導犬の△△

10：45～13：00　体験談、質問タイム、伝言ゲーム、給食等

10／31（金）点字講習会（学校開放日のため保護者も参加）

点訳ボランティアグループメンバー８名の協力により実施

10：45～12：10　点字のお話、ネームシール作成、点字で手紙を書く等

11／４以降　自分の課題追求

ハンディキャップ体験や講習会で学んだことの中から課題をみつけ、今自分にできることを探していく。

例：車椅子でも使いやすい学校づくり

点字のプレート作り（町内の公共施設等）

募金活動

町会議員との懇談会　　など

○○小学校　4年生　出前福祉講座

○日　　時　平成15年10月3日（金）10：45～12：00

○日　　程

時　間	内　容	場　所
10：45～11：00	車いすの説明※	体育館
11：00～11：15	車いす体験①（練習） （3分×4人）	〃
11：15～11：20	押し方等再確認	〃
11：20～11：25	休憩	
11：25～11：50	車いす体験②（本番） （6分×4人）	校　内
11：50～12：00	ふりかえり（感想をきく）	体育館

○当日までに準備していただきたいこと

・児童を6つのグループに分け、各グループ内で車いすに乗る順番を決めておいてください。

・校内での車いす体験の時のコースを決めておいてください。

○体育館内での練習の際の障害物設置について

〈考えられるバリア〉　→〈設置器具〉

段差　→マット

狭い道・障害物のある道→コーンを両側に立てる。（車いすの幅は約80ｃｍ）

高い所　→体育館のステージ上に、物（本など）を置き、それを取る。（車いすの高さからだと届かないかもしれません。）

※車いすの説明（10：45～11：00）の詳細

①質問（車いすに乗ったことがあるか？・車いすの人を見たことがあるか？・車いすを押す時どんなことに気をつけたらいいか？）

②車いすの部位説明

③車いす介助のポイント

④車いすの広げ方、折りたたみ方、押し方等

○○小学校　出前福祉講座

○日　　時　　平成15年10月24日（金）10：45～12：00

○日　　程

時　間	内　容	場　所
10：45～11：00	アイマスク説明	4年教室
11：00～11：10	アイマスク体験①	4年教室
11：10～11：40	〃　②	校　内
	15分×2回	
11：40～11：50	ふりかえり（感想をきく）	
11：50～12：00	予備時間	

○アイマスク体験の内容

1．教室の中で

例：机の上のものをあててみる。

かばん又は机の中から、国語の教科書を取り出してみる。

筆箱の中から赤鉛筆を出す。

声を聞いて友達の名前をあててみる。

友達の顔を触って、誰かあてる。

教室の右端と左端で交互に鈴を鳴らして、どちら側から聞こえるかあてる。

2．校内で

例：ふだん歩き慣れている校内を歩いてみる。

○当日までに準備していただきたいこと

・児童を2人1組のグループに分け、アイマスクを体験する順番をきめておいてください。

・校内の体験歩行の経路を決めておいてください。

○○小学校６年生　総合的な学習の時間　福祉体験プログラム

対象児童：24名　担当教諭：○○先生

○学習のねらい

テーマは、「人との関わり」（６年）である。

１学期は、総合的な学習の導入として、車いす体験・アイマスク体験を行い子どもたちが問題意識をもつきっかけとする。子どもたちは、徐々に身体の不自由な人の思いや寄り添う大切さを実感している。２学期は児童の希望により、点字体験を行う。その後、目の不自由な人との交流計画を立て、３学期に交流日を設ける。交流を通して学んだことを学校内や地域に発信していくとともに、自分にできるボランティア活動について考え、人と関わる力や人を思いやる気持ちをはぐくんでいく。

○授業計画

［１学期］

・本などで障害者の生活に触れ、障害者の思いを知る。

・車いす体験

・アイマスク体験

［２学期］

・点字について知ろう。（調べ学習と視聴覚教材利用）

・点字体験（岡山北ふれあいセンターの点訳ボランティアグループメンバー10名の協力により実施。）

・目の不自由な人との交流計画を立てよう。（どんな工夫をすれば一緒に楽しく過ごせるか考えていく。

［３学期］

・目の不自由な人と交流しよう。

（県視聴覚障害者福祉センターの○○さんと盲導犬の△△を予定。）

・学んだことを周りの人に発信しよう。（ポスター・新聞づくり・校内放送など）

・自分にできるボランティア活動をしてみよう!!（春休みの課題）

○っこ学習（総合学習）～5年A組

活　動　案

○高齢者ボランティア

高齢者のさまざまな姿に触れることを通して、高齢者への理解を深め、ともに生きていくという気持ちを深め、ともに生きていくという気持ちをもつ。

・一人暮らしの高齢者へのはがきを送る
・一人暮らしの高齢者と一緒に活動する
・地域の高齢者（老人クラブ）との交流

○障害者ボランティア

一緒に活動することを通して、同じ目線で物事を見つめ、共に生きていくためにできることを探そうとする。

・視覚障害者、聴覚障害者との交流
　点字や手話を習う
・肢体不自由者との交流
　一緒にバスケットをする

○園児ボランティア

園児と一緒に活動することを通して、相手の思いに寄り添って活動しようとすることができる。

・保育園への訪問
・来年度の新一年生へのプレゼント作り（花の鉢）

↓

活動しながら自分自身を見つめ直し、
自分について考えていくことができる

＊活動後の予定

活動　→　振り返り　→　発信
　　他の学年へ
　　保護者へ
　　地域へ

中学３年生ふるさとボランティア　内容案（H15）

御津町の特徴

○高齢者が多い。（高齢化率28%）

○障害者が多い。（障害者手帳保持者　約500名　20人にひとり）

○子どもとお年寄りのふれあいの場など世代間交流の場が少ない。

○お年寄りが家にこもっていて、人と話をしたり、出かけたりする場が少ない。

活動内容の案

1．ひとり暮らしのお年寄りを訪問する

中学生の訪問を歓迎してくれるお年寄りの家を民生委員と一緒に訪問し、話し相手をしたり、困りごと（例：話し相手がほしい等）を聞いたりする。

※事前に訪問先家庭の調査が必要

2．ひとり暮らしのお年寄りに手紙を書く

3．お年寄りや障害者を学校に招待してふれあい会を開く

4．文化センター等の公共施設を使用して、音楽会や出張文化祭等のイベントを実施する。

障害のある人もない人も、子どももお年寄りも自由に参加できる機会を作る。

5．地域のふれあいいきいきサロンや健康教室でのお手伝い

町内に50ヶ所くらいある、健康教室やふれあいいきいきサロンに一緒に参加し、お年寄りの話し相手、会場準備、ゲームやレクの進行補助などを行う。

※「健康教室・ふれあいいきいきサロン」とは、お年寄りの健康・いきがいづくりを目的に地域住民が主体となって運営するふれあい交流の場。町内の各地区で月に１回程度、公会堂等に集まり、手芸・レク・食事・おしゃべり会等を行っている。

6．知的障害者親の会の空き缶収集の手伝い

①家にある空き缶を集める

②空き缶を集めていることを学校や地域のみんなに伝えて協力を呼びかける。

7．病院ボランティア

①病院で患者さんの車いすを押してあげる。

③食事の時にメッセージカードを添える。

8．秋祭りの準備の手伝い

秋にある地域の伝統的なお祭りの準備を手伝う。

9．福祉ガイドマップづくり

町内の公共施設等のバリアフリー度を調べ、障害者が利用する際の参考になるようなガイドマップを作る。障害者用トイレ、スロープ、手すりがある施設の調査を行う。

10．ボランティア御津の人と一緒に高齢者への配食サービスの手伝い

①ボランティア御津が実施の高齢者配食サービス（ひとり暮らし＋高齢者のみの夫婦を対象に手作りのお弁当を配る）で、食事作りや配達の手伝いをする。

☆日程があえば、実施可。

②お弁当に添付するお手紙又はイラストを書く。

中学３年生ふるさとボランティア　内容案（H16）

御津町の特徴

○高齢者が多い。（高齢化率29%）３人にひとりが65歳以上のお年寄り
○障害者が多い。（障害者手帳保持者　約500名　20人にひとり）
○在住外国人約100名
○子どもとお年寄りのふれあいの場など世代間交流の場が少ない。
○お年寄りが家にこもっていて、人と話をしたり、出かけたりする場が少ない。

活動内容の案

１．お年寄りとかかわる

①ボランティアの人と一緒にお弁当を作って、お年寄りの家を訪問する。お弁当に添付する手紙を事前に書く。
②お年寄りに手紙を書く。
③お年寄りを学校に招待して、ふれあい会（喫茶、演奏、おしゃべり等）を開く。
④ふれあい・いきいきサロンや健康教室でお年寄りの話し相手、会場準備、ゲームやレクの進行補助などを行う。
※「健康教室・ふれあいいきいきサロン」とは、お年寄りの健康・いきがいづくりを目的に地域住民が主体となって運営するふれあい交流の場。町内の各地区で月に１回程度、公会堂等に集まり、手芸・レク・食事・おしゃべり会等を行っている。

２．障害のある人とかかわる

①文化センター等の公共施設を使用して、音楽会や出張文化祭等のイベントを実施する。
②知的障害者親の会の空き缶収集の手伝い
　家にある空き缶を集める→空き缶を集めていることを学校や地域のみんなに伝えて協力を呼びかける→集めた空き缶を保健センターにある機械でつぶす。
③福祉ガイドマップ作り
　町内の公共施設等のバリアフリー度を調べ、障害者が利用する際の参考になるようなガイドマップを作る。障害者用トイレ、スロープ、手すりがある施設の調査を行う。

３．子どもとかかわる

①保育園や幼稚園で子どもの遊び相手をしたり、子どもが楽しく安全に過ごせるように環境整備（砂場の消毒、本の整理など）をする。

４．外国の人とかかわる

①御津町にいる外国の人に日本語を教えてあげる。
②空き缶収集などでお金をためて、外国に寄付をする。文房具を寄付する。

5．地域とかかわる

①地域の公園の清掃

②カーブミラーの清掃

③秋祭りの準備の手伝い

④御津町のふるさとマップ作り

町の自慢、特産品、お店などを紹介した地図を作る）

できた地図を町内の公共施設やお店に置いてもらう。町内の人の町への愛着が増し、町外の人に御津町を知ってもらうきっかけになる。

学　習　計　画（案）

その１（ハンディキャップ体験を通して学ぶ）

活　動　内　容	活動のねらい
①障害について学習（授業で学ぶ、本等で調べる） 障害の定義・種類・原因・症状等 御津町内の障害者数	障害についての基本的な認識を形成 障害とは、単に個人の身体上の機能障害だけを指すのではなく、障害者をとりまく社会環境の不備もバリアとなっていることを理解する
②視聴覚教材（ビデオ等）を利用 五体不満足の乙武さんのビデオ等	障害者の思いや願いに触れる
③ビデオで出会った人物に手紙を書く	相手のことを深く考える 自分の思いを整理する
④障害者の生活について考えてみる（困ること等）	身近なことから自分の問題として捉えていく
⑤障害擬似体験 車いす体験 アイマスク体験 無音体験（読話伝言体験）	障害の不自由さを理解するとともに、たとえ障害があってもすべてのことができない訳ではないということを理解する
⑥障害者の介助方法を学ぶ体験	一方的な介助ではなく、相手の気持ちを考え、相手の立場に立った支援の大切さを学ぶ 介助においては、すべてお手伝いするのではなく、できない部分のみをサポートすることも学ぶ
⑦体験を通して学んだこと、新しい気づきについて考察	障害者や障害体験から学んだこと、それらを通して、自分を見つめ直し、新たに気づいた自分や友達の長所などについて考える
⑧今後の日常生活のなかで自分にできることは何か考える 身近なことでお手伝いできることはないか まちをどのように改善すると障害者が生活しやすくなるか まちで障害者に出会った時の障害者との接し方 ⑨今回の学習で分かったことを周りの人に伝える（発表）	ノーマライゼーションの実現に向けたとりくみ・考察を行う
⑩今回の学習をもとに（春休みに）自分にできるボランティア活動に挑戦してみる	人と関わることの喜びや他者の喜びを自分の喜びとし、相手の立場に立って考えることの大切さを地域のなかでの実体験から学ぶ

その２（障害者との交流を通して学ぶ）

今回の学習構想の第１次の部分を２月中旬から３月中旬の約１ヶ月間かけて行う

その３（　　〃　　）

今回の学習構想をもとに、第１次から第３次までを少しシンプルにして行う